町田市における石造物について

1. 調査概要

町田市における本格的な石造物の調査は、市史編纂のときに始まり、1976 年に刊行した『町田市史下巻』では 531 基の石造物が報告されました。その後、1982 年に町田市立博物館が地神塔・庚申塔・道祖神についてまとめた『町田の石仏』を刊行し、2002 年からは「まちだ史考会」が文化財調査活動の一環として調査を行ってきました。

上記の成果をもとに町田市教育委員会は、2015から2018年度にかけて下記のとおり悉皆調査を行い、2019 年に『町田市の石造物』を刊行しました。

- **調査対象**

  市内において近世から現代にかけて造塔され、民間信仰の対象となる現存石造物 944 基。

- **調査期間**

・一次調査（2015～2016年度）：まちだ史考会編『町田市の石造物』を参照し、所在確認。

・二次調査（2017年度）：一次調査の分析整理、有識者への執筆依頼、まちだ史考会への論考依頼。

・三次調査：（2018年度）：調査内容を集計し、報告書『町田市の石造物』を刊行。

2. 町田の石造物の特徴

上記の調査から、町田の石造物を見てみると、地蔵尊、馬頭観音、庚申塔が全体の半数を占めます。この割合は、南関東における一般的な傾向とほぼ同じです。

刻字されている年代を見ると、相原町大戸観音境内にある庚申塔の寛文 10（1670）年が市内最古であり、ここから江戸時代後期にかけて造立のピークが見られます。

特に町田の特徴的な石造物としては、天狗を模したと思われる道祖神が成瀬地区に3基あり、全国的に珍しい例として石造物関係のさまざまな研究書に紹介されています。

（画像）成瀬にある天狗を模したと思われる道祖神3基

元文2年建立（山之根稲荷社境内）

享保14年建立（西山児童公園内）

年代不明（成瀬クリーンセンター横）